



同窓会々員の皆様へ

会長 林 進一

昭和60年12月6日

群馬県立 太田工業高等学校

同窓会 0276(45)4742

会員の皆様お元気で御活躍されている事と御推察申し上げます。私事ですが、子供達にせがまれ筑波博に2回行って来ました。

正式名、国際科学技術博覧会、テーマは『人間居住環境と科学技術』で21世紀に向う人類のあるべき姿を求め、科学技術について、新しいイメージを探究するという趣旨である。茨城県筑波学園都市に百ヘクタールを占めて3月17日から約半年間、開催された。

1回目は、3月30日、西ゲート前の駐車場に8時30分に着いて、会場に向って2/3分歩いたら、西ゲートから延々長蛇の列が出来ていました。開場は9時30分なので、西ゲートをくぐったのは10時ちょっと前である。どの企業館も2時間以上待たねばならず、子供達は企業館の見学を飽ききらぬ。24mの上空を吊り下って動くロー

プウェーのスカイライドで星丸ランドへ行くことになった。ここで遊んだ後、ソビエト連邦館、大韓民国館や政府館、歴史館とすいてるパビリオンを見学しました。

そして、シンボルタワーから、会場全景や筑波学園都市を一望し地上5/6mを走るモノレールのビスタライナーに乗り、一路帰路につきました。

2回目は待つという約束でいきましました。2時間半待つて、くるま館を、そして、三菱未来館を見学した。又、2時間待つて、直径85m世界一の大観覧車に、もう一つの目玉商品であるリニヤモーターカーのHSSTに乗り、子供達は満足した様子でした。

同窓会員の皆様のなかにも、私同様、筑波博は『待ちの忍耐』を経験した人達が多いと思います。同窓会員の皆様には、今後共、

同窓会及び母校発展の為、ご指導ご協力をお願い致します。

新任の御挨拶

校長 栗野 昭

同窓会会員の皆様には、母校発展のため平素より格別の御協力と御尽力をいただき厚く感謝申し上げます。

このたび狩野校長先生の後任として、校長を命ぜられました栗野です。よろしくお願い申し上げます。

顧みますと本校は国の科学技術教育の振興と近代工業都市開発をめざす地域社会の熱意により昭和三十七年四月に本県屈指の工業都市である太田市に創立されました。以来歴代の校長先生はじめ教職員、御努力と地域社会の皆様のご支援により今日まで五千五百名余の同窓生の諸兄を送り出してまいりました。

その三十三年前、本校創立時の昭和三十七年四月に私は本校教諭を命ぜられ着任しました。

一年間は群大工学部に内地留学生として派遣され勉強させていただきました。

それからは多くの同窓生諸兄に接し、本校のあゆみと共にあゆんで参りました。

ご承知のとおり今や科学技術の進歩は驚異的なテンポで新しい情報化時代を作り出しつつあります。

このようなとき、産業教育の必要性はますます強くさげばれております。どうか本校に学ばれました同窓生諸兄の、学校への御支援と後輩に対します一層の御指導をお願いいたします。

また、同窓生の諸兄におかれましても専門の知識や技能の上から情報化時代に即して研鑽を積まれ、それぞれの職場で御活躍下さいますようお願い申し上げます。

終りになりましたが、諸兄のますますの発展と御多幸を祈念申し上げますと共に微力ではありますが本校発展のため、全力を尽す所存ですので御協力と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

誇り

前校長 狩野徳司

三年間の在職中、洵にお世話になりました。有難うございます。

過ぎ去って顧ると歳月の流れは光芒の一閃に似て、何事も成す術(すべ)のなかつたことに内心忸怩(じくじ)たる思いを馳せてお

ります。

過日、PTA全国大会(北海道)に出席する機会を得ました。その席上、横路北海道知事が挨拶の中で次の様なことを述べられました。

「北海道は開拓から百十数年しか経っておりません……」

「北海道の開拓には、開拓に全く経験のない人達が集って来て、広大な原野を切り開いていきました。そして、二、三年後には学校を作って子供達の教育を始めました。」

「子供達は、何も整っていないしかも、厳しい自然の中で学習しました。そこには親達の厳しい自然と闘う姿があったのです。」
「私達は今でもこのことを強く誇りとしています。……」

誠に感銘深い話でした。

このメモを再び読み返すと、何時か初代校長嶋岡先生の話が、横路知事の話と重ってくる思いです。

「太工の開校は仮校舎住いから出発してね、新校舎に移転が出来たのはやっとその年の秋だった。」

「当時、新校舎と言っても、やっと教室棟、実習棟が揃っただけで、校庭は整地が遅れていて草茫茫々。毎日毎日が生徒と職員の間草むしりやら石拾いの連続だった。」
「そんな中でも生徒たちは実に

よく勉強したね。部活も見る見る強くなった。皆やる気になっていた。

「何時かきくと、この草原の校庭から甲子園に行こうやと冗談を飛ばしたものだつたよ。」

二十数年前、太工が地元の期待を大きく負って開校した当時、職員や生徒が処に集って、創業に情熱を燃した心意気が、横路知事の話とどこか一脈相通ずることを感じたのでした。

太工は創立以来多くの人材を世に送り、地域の中心的工業高校としてその責任を十分果たしています。

生徒諸君の努力によって、次々と新しい成果を生み、それが学校の伝統となって息吹いています。

だが、それと共に、本校には他校に見られない建学の実践があります。それが建学の精神となつて今日の太工の礎を成しています。

このことは、太工の大きな誇りであると思っています。

人口と食糧

教頭 大沢道保

太田市は人口が十三万人を超え、つい最近桐生市を抜いて、前橋・高崎につき、県下第三位の都市に躍進した。太田市の産業・経済の発展を象徴して、何となく嬉

しいニュースである。

しかし一方で、日本の人口は最近の十年間で一割近く増加し、一億三千万人を超えたと聞くと、ゼまい日本で、そんなに増えて大丈夫かと心配になる。

人口問題は戦前からある人類にとつての課題であるが、戦後日本では特に論議がさかんであった。

「人口は本来、幾何級数的に増加するが、農地は算術級数的にしか増加し得ず、必然的に食糧の供給は不足する。その結果として、人口増加は不自然に抑制される。」

という、マルサスの人口理論は、当時食糧不足にあえぐ日本で真剣に論議された。どの家庭も、それまでの「生めよ殖やせよ」から一転して、少数精鋭の家族計画に切替えた。政府は農地造成と農業技術の改良に力を注いだ。

ところが、事態は当時予想もしない方向に展開した。米が過剰になってきたのである。政府は、いわゆる減反政策を実施せざるを得なくなつてしまった。それは戦後我が国が工業国として目覚ましい

発展を遂げ、工業製品を輸出するかわりにあらゆる食糧が大量に輸入されるようになったからである。

しかし目を世界に転ずれば、アフリカ諸国を始めとする発展途上

国では、深刻な食糧難にあえいでいる。すなわち経済力の乏しい発展途上国において、マルサスの人口理論は今日も生きていたのである。

十余年前、ふとした事で世界はオイルバニクに見舞われた。このとき地球の石油は、あと二、三〇年で枯渇すると云われた。今は原子力を始めとする代替エネルギーの開発もあつて、石油問題は小康状態にある。しかし何時、どんな切っかけで再燃するか保障のかわりでない。

食糧問題も、そんな危険をはらんでいる。世界の人口は今でも年率二、三近い増加を示しており、二〇世紀末には六十億を超えることは確実といわれる。すでに始まっている食糧危機は将来どのように拡大するか予測もつかない。

最近注目されているバイオテクノロジーは食糧生産に応用すれば今の数倍以上の収穫の可能性を秘めるといわれるが、食糧問題の救い主となるか、大いに期待したい。



正直ということ

事務長 廣瀬政弘

人間のその日その日は、当惑と失敗と後悔の連続のようなものである。大抵の人は、その失敗と後悔が自分だけのことだと考えて、悲しんだり、悩んだりする。しかしどの人だってみな、本当はほとんど同じことなのである。失敗や後悔は、人に使われるもの、人に教えられるもの、人に指導されるものだけにあるものではない。人の親、人を使う経営者、人を教える教師、人を指導する宗教家、人を裁き処罰する裁判官などにも、またもちろん、政治家とか官吏とか、公僕などと言われる人間にもそれはついてまわる。

息子や生徒や雇人や部下や被告などというものは、自分の失敗を認めたり告白したり、ザンゲしたりする立場にあって、この人生では不利なものである。

しかし人の親だったり、人を使ったり、人を教えたりする方もまた、必ずしも有利だとは言われない。スネをかじられたり、ツルンあげになったりすることもある。そうでなくとも、親とか指導者というものは素直に自分の失敗、

自分の見当違い、自分の誤算などを告白できない立場にいるものである。

親が自分の虚栄や無方針を一つ一つ認め、教師が自分の学問の欠点を公言し、社長が正直に泣きごとを並べる癖を持っていると、その学庭、その教室、その会社は混乱に陥ってしまうにちがいない。

普通親父とか、教師とか、大臣とか、社長などは、落ち着きはらった顔をしているが、それは苦しいことや冷汗を流すような気持や恥かしい気持を隠すための作り顔のようなものだ。

私は社長も大臣も教師もしたことがないが、親になって少々しかたっていないのでそれぞれの苦しさに分らないが、昔のように生徒とか、息子とかという立場になって頭をかいたり、スネをかじったり、する側にまわりたい、と思うことがしばしばである。

教師をしていれば一日に一つか二つはきつと間違いを言ってしまうこともあるかと思う。それを取り消さないのは時として、折角生徒の心の中に出来たある認識の全体の形をこわしたくない為にと黙っていることもあると思う。父親としてもまたそうである。子供が折角その気になっているのを、あ

んまり何もかも喋って傷つけたくないと思つて沈黙することもある。

又裁判官はどうなんだろう。検事の言い分と弁護人の言い分を聞いて判決しようとして、困ることはあると思うのに正直に言えない立場にあるかと思うと親父より衰われとも、悲しい立場にいるものだと思うのである。

雑感

前事務長 石関繁雄

現代は車と核家族の時代であるが、私は免許を持っていない。現代の貴重人(変人)の一人かも知れない。毎日毎日自転車と電車で通勤し、電車に乗っている時間は三〇分その間ぼけーとしていたり、時には本などを読んで過している。八月六日いつもの様に帰宅の電車に乗り座席に落ちていた日本経済新聞の夕刊を拾い読んでみると、その中にあすへの話題「親を捨てない家族に」早川一光氏(医師)の記事が目にとまり次のような記事であったと思う。昔は「親孝行したい時には親はいず」といったが今は「親孝行したくなくても親がいる」という時代、こういう時代に帰宅してまず両親のところに行き「ただいま帰りました」と手

をついてあいさつできる人、そういう社長あるいは職場の上司であるならばきつとすばらしい職場であり、万事がうまくゆく会社であろう。そして両親(親ごさん)にあいさつできない人はためらわず今すぐ実行してください。その姿を子供は必ずじっと見ている。そのことが親を捨てない子育てがもう始まったという事だそうです。

人間だけが親をみることができるのである。動物は、自分が生きてゆくのが精一杯で親や、兄弟や友達をみている暇がない。みていたから自分が生きてゆけない。それ程きびしい自然の定めであり、人間だけがいつの間にか他人をみる能力を身につけ、他人を守るということが、実は自分を守ることだということを知ったのだ。動物本来の姿で生きるか、人間らしく生きるかは親をどうみるかで定められるようだ……この記事が何故か脳裏から離れないのは、私の親への縁の薄さかも知れません。

私は四才の時に父を戦争で失い、母親の手で育ったので、父親は知らないといった方が正しいような気がします。その母も今では七十五才の老母、長男と一緒に生活している今は幸せのような気がする。

もうすぐ敬老の日がやってきます。心を新たに私なりに親孝行してゆきたい。又彼岸には父の墓参りを共に子供とし、このことが子供にどう伝わるか不安はあるが期待し人間らしく生きてゆきたいと思う。

四月一日付で母校伊勢崎商業高校へ転任となりました。大へんお世話様になりました。会員の皆様のご活躍と同窓会のご発展をお祈り申し上げます。

私の趣味

十二期生 対比地恒夫

学校を卒業して、早いもので十年が過ぎようとしています。今では学生時代の思い出も薄らぎつつある今日この頃です。

東京三洋電機に入社して、七年が過ぎました。毎日が、無我夢中としかいいたくありませんが、今では仕事上のお付き合いだけではなく、同好会な雰囲気の中で、私は趣味としてスポーツをしています。休日におおぜいの人達と、スポーツを楽しむことによって、仕事上では味わうことのできない、喜び・満足感というものも改めて知ることができました。

話しはかわりますが、最近私はゴルフを始めました。今まで私の趣味はどちらかというと、野球・ソフトボールという様に、団体の中で行なっていました。ゴルフはどちらかというと個人的スポーツの様に思います。それだけに、勝敗にこだわらずにプレーしたいと思っただけでも、つい人には負けたくないという気持ちが強すぎてスコアがのびないことがしばしばあります。せめて休日の時は、楽しくやりたいと思っています。

最後に、同窓会のみなさん、いろいろの趣味をもっていることとありますが、心にゆとりをあたえる為にも、何か趣味を持ったらいいかがでしょうか。これからも勝敗にこだわることなく、楽しい趣味にしていきたいと思えます。機会がありましたら、ゴルフ等のコンペでお会いしましょう。

ソフトボールチームに参加して

蕪川OB会 石関次男

太田工業高校を卒業してから早いもので二十年を過ぎた。

もうじき「四惑」の歳にとどくので健康管理のためにソフトをはじめました。

職業柄、公休は日曜日ではなく平日が多いし泊り勤務もあるので、体力には人一倍神経を使っています。何か良いものはと考えていた時に、私の一年後輩の鈴木裕氏にソフトでもやってみればと云われたので「チームの荷物にならない範囲という条件」で彼が監督をしているオーナイズに入れてもらった。

このチームは工業の二期生の高沢氏がエースで投げている。又同じ二期の清水(旧姓楢原)氏も加入している。

今まで鈴木、高沢氏ともAクラスのチームでやっていたが、チームが解散し、今年早々に新チームを結成し現在に至っている。

若いチームなので、年令は上から二番目に位置する。チームメイトは皆経験者が多いのと、若いのでよく打ちよく走る。私はあまり参加できないが、練習、試合は多くこなしている。

職場対抗やババさんソフトとは違って、ナイターでのボールは速いうえウインドミルが主流なので、最初は戸惑いボールにあてるのが精一杯だった。野球と違い塁間も狭いし、守備位置も比較にならず慣れるのに時間がかかった。非力な私には外野オーバーをするには皆無なので、塁間を抜くか、バ

ンドを狙うバッティングに徹している。それでも遅れ気味な時はバットをねかして打っている。

団体競技は一人のスーパーマンよりも全員のチームの和が重要視される。個人の体力や技量の差はチームが一本にまとまる事により計算でははかりきれないものを生み出すことが多い。

雑考

アキレス憐 江原三郎

昭和47年、第8回卒業生として社会人の仲間入りをし、早、13年の歳月が過ぎました。

卒業と同時に、栃木県足利市在の、アキレス憐(旧称興国化学)に、就職し現在に至っております。

会社としては、前記の如く、社名もアキレスと改正され、母校に於ては、昨年夏の高校野球、甲子園出場と、私共が在校時代よりもますます意気盛んの様です。

さて、私はと申しますと、7年前に結婚をし、現在二人の児の親として、日々悪戦苦闘しております。

す。つい最近まで両親に甘えていた自分に子供ができ、この子達はまだ、ガキの気持ちでいる自分が育てるので、心の中いかにばかりか、不思議なものです。

両親の有難さと言うのは、親元を離れ、子供を育て、初めてわかる、と言われてきましたが、その気持ちに徐々に近づきつつある昨今です。

アキレス脚には、太工同窓生も多く、第一期からの卒業生も多数おり、太工創成期時代の話しを聞いた事が有ります。授業以外に、草取りから始まった校庭造り。校舎建築の勤労奉仕等々。

初期の卒業生の方々の、そうした福祉的でない、及び精神が、社会で受け入れられ、太工卒業生の評価を高めたといえるでしょう。

私も一ケタの期の卒業生として極力その精神を真似たいと思っております。

初期の頃の人材は優秀だが、後は悪いといわれぬ様に。

(しかし、私の知り得る限り、逸品な人達がそろっており、乱筆乱文な寄稿となりましたが最後に、太工同窓会の多いなる、発展を祈ります。

卒業して

二十期卒 今泉久雄

早いもので私が卒業して、早一年半も経ってしまいました。

私は、太田工業を卒業して就職と同時に群大工業短期大学部に入学しました。

別に特別な理由があった訳ではありません。ただ、昼間の学校には行きたくなかったし、就職したら何か足りない様な気がしたから、とりあえず、昼間は会社へ行って、夜間、学校に行けばいい、学校を卒業したらもっとまじめな会社を探せばいいと思ったからです。しかし、あまり深く考えずに決めてしまったので、一時は本当に三年間も続くのか心配しました。始まってしまえば、何事もなく一年経ち、さらに二回目の夏休みを迎えてしまいました。

夏休みといえば、私達二部学生は普段、四時半に仕事をやめて、八時三十五分まで大学の講義があるのですが、夏休みに入るとまったく生活パターンが変わりこまります。なにしろ、毎日三十分早く仕事をやめていたのに、休みに入るとその日から定時後四時間も残業し、休み中はずっと三〜四時間は

残業するハメになってしまいうからです。はっきり言って疲れます。しかしそれでも何か物足りないのです。何が足りないかは紙面の都合で、次の機会があったら書く事にしますが、おかげで、毎日家に帰るのが遅くなってしまっただうしようもない……。

在校生の皆さんで二部の学校へ行こうと思っている人、特別にやむ必要はありません。気楽にしていればいいと思います。ただし学校に行っていると、自分自身の時間は相当少なくなります。

しかし、卒業すれば短大卒の資格が得られるので、のちに役立つのではないかと思えます。また、新しい友人も出来ますし、平均的でない生活もおもしろいと思えます。

セールス出向の体験

富士重工 久保田 幸樹

私は、今現在の職場に約15年勤務していて、年々セールス出向経験者が増え、経験者のメンバーがひとまわりも、ふたまわりも大きくなって帰って来ているのを、私なりに感じていた矢先、上司よりセールス出向の話があり、私は社

会勉強のつもりでセールス出向を決意しました。

セールス出向は、56年10月1日付で、神奈川に3年間の赴任となり、最初の1週間は車を販売する為の基礎知識である車の査定の方法や注文書の書き方を主に教育がありました。

それらの中で、今でも記憶に残っている言葉として「セールスとは、お客に断わられた時から始まる」という、いわゆるお客に接する場合、どんなささいな糸口でも見い出し、車を売り込んでいく粘りとタイミングを忘れてはならない事だと思いました。

一口に言って3年間はけっして短くはありません。

ですから私がどれだけ頑張った車の販売が出来たか不安な点がありました。セールス出向の仲間が多くいる事を聞かされ、ちょっぴりほっとしました。

半年、一年が過ぎてゆく中で、私は大勢のユーザに接して車の販売に努めました。中には会社役員や商店の御主人と言った具合に人様々の商談で言葉の使いわけや車のセールストークでスバルの特性や知識はもちろんですが、他メーカーとの商品比較を知っていなければ、スバルのユーザはよ



り増えない事を反省した時がありました。さらにユーザーが年間のなかで、車を買う期間がもつとも悪いのは2月と8月で、私は3年間8月についてはまったく販売がふるわず夏休みでした。

しかし車が売れない時に仕事（セールス活動）を捨てず地道にセールス活動をした所、3ヶ月後、半年後に芽ばえて、車の販売に結びつきました。

最後に私はセールス出向で、現在の職場で得られなかった、人とのまじわりや、販売の立場、そしてユーザーの意見、要望等を開発職場で反映させてゆくつもりです。

記念講演

日本の自動車産業の現状と今後の課題について

富士重工業 一期生 林 進一

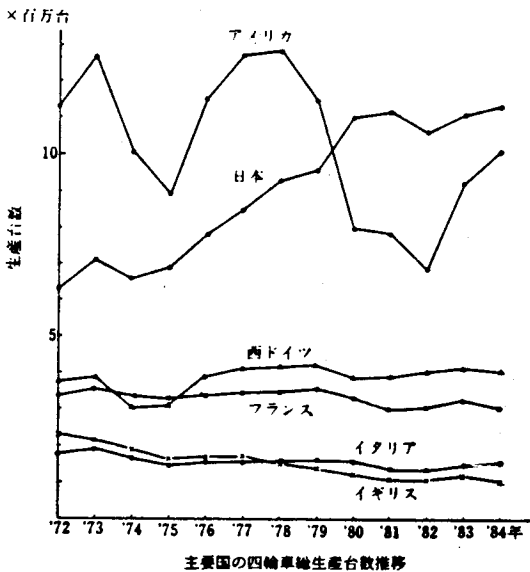
一、日本の自動車産業の現状

'84年の日本経済は所得面での改善が遅れ個人消費に盛り上りを欠いたものの、景気拡大を続けるアメリカ向を中心とした輸出増とハイテク関連をけん引役とした設備投資に支えられ、経済成長率は前年比5.8%と緩やかな拡大であった。

'84年における主要国の生産台数の傾向は大枠においては、'83年と比し変化がない（左図）。ただ、アメリカの'82年から'83年にかけての急激な伸びは落ち着き、対前年比18.7%増に止まった。

日本も対前年比3.2%増と伸びてはいるもののアメリカとの格差が年々縮まりつつある。

'84年のメーカ別生産ランキン



ではフォードが日産を抜いて3位に、クライスラーが10位から7位とアメリカ勢の健闘が目立った。

また、上位20社の中に、日本メーカは8社もはいつており、我が富士重工は19位である（表1）。

'84年における日本車の生産台数は、'83年に引き続き一千万台の大会を越えたが、乗用車については対前年比を僅かながら下回る結果となった（表2）。またKDセツト生産台数は対前年比17.7%の伸び

をみせ、'83年の26%増には及ばないものの順調な増加傾向です。

'84年の国内販売四輪車台数は前年比1%増の五百四十四万台で過去最高を示したが、乗用車は1/2%程度の減少となっている。逆に、トラック、バスは約11%の増加と健闘している。

'84年の総輸出台数は前年比8.8%増の七百二万台であった。乗用車については前年比6.6%増の四百六十六万台と、輸入乗用車四万四千の百倍強であった。地域別では、北アメリカ47%、ヨーロッパ24%と、この2大仕向地で約7割を占めているという状況は変わらない。

海外市場の販売状況は、主要国の四輪車登録台数を見ると、アメリカが対前年比約6%増、イタリアが約5%増を示した。逆に、西ドイツが1.8%減、イギリスが2%減、フランスは'82年以降、引き締め政策により停滞を続け、約12%減という結果になっている。

二、今後の課題について

近年、電子制御技術はエンジンやトランスミッションの制御分野ばかりでなく、自動車の走行基本性能である「走る」「曲る」「止まる」といった性能を、メカニカル制御では得られない応答の良さ

を活かし、より高度なレベルでバランスさせる。これからのいい紹介したいと思ます。アンチロック装置のブレーキ制御の理想は、各種の路面において最も高い摩擦係数を与えるスリップ率に確実に車輪速度を制御することである。スリップ率は車体速度と車輪速度の関数であり、現在採用されているアンチロック装置は車体速度は車輪速度から推定している。車輪がロック状態に近いきは、車輪速度は車体速度から分離してしまい、その推定が必ずしもうまくいかない場合も生じるので、真の車体速度と検出するの理想となる。真の車体速度を検出するため、リーダーにより直接検出する方法が、試みられているが、コストの点などから実用化に至っていない。

表1 1984年のメーカー別生産ランキング (単位:台)

順位	メーカー名	国名	1984年		1983年	
			合計	前年比(%)	合計	順位
1	GM	アメリカ	5,674,759	+11.3	5,099,736	1
2	トヨタ	日本	3,429,249	+4.8	3,272,335	2
3	フォード	アメリカ	2,945,393	+18.9	2,474,191	4
4	日産	日本	2,481,686	-0.1	2,482,540	3
5	ルノー	フランス	1,644,743	-12.5	1,879,861	5
6	VWグループ	西ドイツ	1,625,569	+3.7	1,538,206	6
7	クライスラー	アメリカ	1,461,211	+38.9	1,051,809	10
8	プジョーグループ	フランス	1,413,640	-2.5	1,449,722	7
9	フィアットグループ	イタリア	1,366,342	+2.1	1,337,811	8
10	マツダ	日本	1,133,321	-3.2	1,171,350	9
11	三菱	日本	1,095,156	+12.4	974,705	12
12	本田	日本	989,036	-4.2	1,032,440	11
13	GMカナダ	カナダ	820,191	+2.2	802,326	14
14	オペル	西ドイツ	795,472	-16.7	954,992	13
15	鈴木	日本	689,871	+9.3	631,310	16
16	ベンツ	西ドイツ	600,991	-6.7	644,035	15
17	フォードカナダ	カナダ	596,968	+46.7	406,954	20
18	ダイハツ	日本	566,076	+6.7	530,296	19
19	富士重工	日本	549,415	+1.6	540,680	18
20	ドイツフォード	西ドイツ	539,779	-1.5	547,950	17

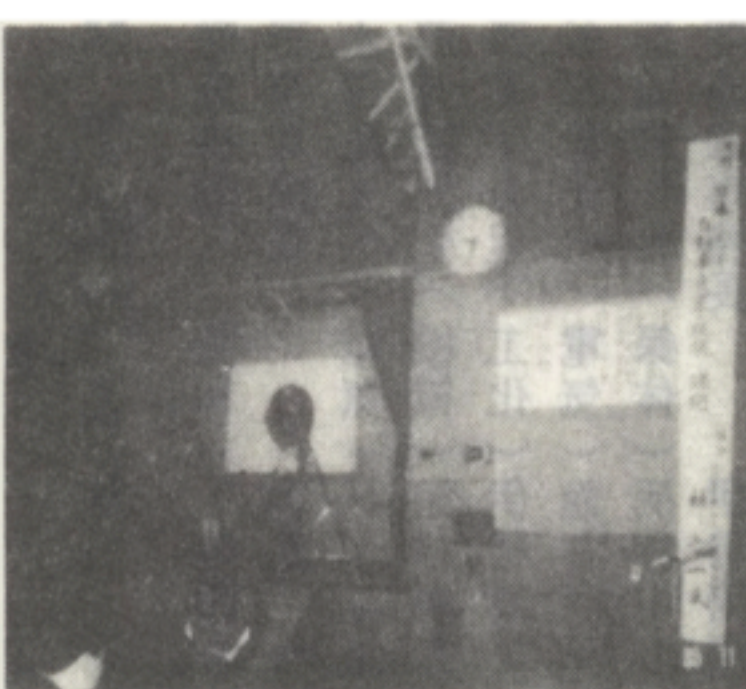
電子制御パワーステアリングは、車速感にイパドの好みに合わせて各種機能を開発し、統括して思われる。ステアリング系ではもう一つ関心の高いのに四輪操

表2 日本の四輪車生産台数 (除KDセット) (単位:台)

乗用車	普通・小型車	'84年		'83年		前年比(%)
		台数	前年比(%)	台数	前年比(%)	
	軽四輪車	194,702	95.6	203,587	95.6	
	小計	7,073,173	98.9	7,151,888	98.9	
(参考)	普通・小型車	3,086,725	113.5	2,718,524	113.5	
	トラック	1,305,022	105.1	1,241,247	105.1	
	バス	4,391,747	110.9	3,959,771	110.9	
	小計	11,464,920	103.2	11,111,659	103.2	

出典:日本自動車工業会資料

出典:日本自動車工業会資料



舵システムがある。これは前輪の舵角に関連させて後輪にも舵角を与えて旋回性能を向上させるシステムで、電子制御技術と組み合わせることによって飛躍的に運動性能を向上させることが可能となる。電子制御サスペンションは、現在の減衰力、ばね定数切換えの機能付加や性能向上以外に、アブソルバとばねを一つのアクチュエータに置き換え、最適に制御して従来以上に安定性・操縦性と乗心地を向上させる研究・開発が進むものと考えられる。

四輪駆動車については、センターデフ(旋回中は前輪の方が後輪より早く回転するので、この前後輪の回転速度差を吸収する)のロック操作を運転状態により自動制御を行ない4WDの性能をフルに発揮させる。そして、イージードライバ化が図られると思います。

昭和59年度 卒業生の進路

進路	希望者数				決定者数				未定者数				
	M	E	C	計	M	E	C	計	M	E	C	計	
進路	大学	8	8	4	20	8	7	3	18	0	1	1	2
	短大・高専	1	0	1	2	1	0	1	2	0	0	0	0
	各種専修	11	5	15	31	10	5	15	30	1	0	0	1
就職	学校斡旋	54	64	54	172	54	64	54	172	0	0	0	0
	その他	2	1	1	4	2	1	1	4	0	0	0	0
合計	76	78	75	229	75	77	74	226	1	1	1	3	

()内は就職進学者数を示す

昭和五九年度卒業生の進路
 今年は進学希望が減少し前年の30%から23%になった。求人が増加傾向にあり就職が有利な状況になったせいだろうか。
 就職した卒業生のうち85%が県内企業で通勤希望が定着して来た。なお就職希望のうち一次不合格者は12名で(公務員を含む)これはここ二、三年減少しており、また二次募集が多かったのも特徴的であった。進学のうちわけは別表の通りであるが四年制が少なくなり専門学校がふえてきた。

昭和59年度 卒業生(第21回)就職状況

会社名	M	E	C	計	会社名	M	E	C	計	会社名	M	E	C	計
(太田・新田)					凸版包材			3	3	沖電線			1	1
富士重工業群馬	8	3	4	15	東京樹脂インダ			1	1	住軽アルミ箔			1	1
荻原鉄工	5	2	2	9	クラリオン	1			1	東京IC			1	1
岡本理研ゴム		1	4	5	三友電子			1	1	パイロット万年筆	1			1
三菱電機		2		2	富田電機			1	1	ビクター伊勢崎電子		1		1
東芝シリコン			1	1	高木電機		1		1	(東京)				
沢藤電機	2	1	1	4	東日本段ボール			1	1	長谷川香料			1	1
群馬日本電気	2	6	1	9	日清紡	2		2	4	日野自動車	1	1		2
加藤製作所	1			1	オリオン精工	1			1	東武鉄道	1			1
明電舎	2		2	7	国産化学			1	1	橋本産業			1	1
鈴木楽器	1			1	板倉農協	1			1	(栃木県)				
金子製作所			2	2	富士通	2		2	4	バンドウ化学			4	4
宝英製作所			1	1	日東電機		2		2	東京三洋電機		2		2
大成金型製作所	1			1	中央電子			1	1	(埼玉県)				
早川自動車	1			1	橋本フォーミング	1			1	アトム化学			1	1
竜舞プラスチック	1			1	鐘紡群馬工場			1	1	曙ブレキ	2			2
ヤマト発動機	1			1	(前橋・高崎地区)					日本精工	1			1
太田消防署	1			1	日産プリンス		1		1	東日深光		1		1
東亜工業		1		1	東京電力		1		1	秩父セメント	1	3		4
(館林・邑楽地区)					自衛隊	2			2	本郷製作所			1	1
東京三洋電機	8	12	7	27	(伊勢崎・桐生)					(神奈川県)				
宮津製作所	1		2	3	日本電子機器	1	2	1	4	富士通川崎			2	2
日本ラジエータ	1		1	2	東洋アルミン			1	1	(大阪府)				
勸業電気	1		3	4	日本ビクター			1	1	サントリ		1		1
北海マボ			2	2	三ツ葉電機			1	1					
凸版印刷			1	1	東芝			1	1	合計	54	64	54	172

同窓会々員数 S60.3.1現在

卒業回数	卒業年月日	合計
1	昭40.3.12	302
2	41.3.9	315
3	42.3.9	306
4	43.3.9	303
5	44.3.6	322
6	45.3.6	321
7	46.3.5	319
8	47.3.1	311
9	48.3.1	306
10	49.3.1	289
11	50.3.1	273
12	51.3.1	257
13	52.3.1	261
14	53.3.1	260
15	54.3.1	245
16	55.3.1	227
17	56.3.1	241
18	57.3.1	228
19	58.3.1	222
20	59.3.1	235
21	60.3.1	229
合計		5,772

広瀬政弘事務長

前工より

森部和行先生(工化)

非常勤

吉田智光先生(数学)

新任

成田浩士先生(電気)

新任

宮内光一先生(工化)

新任

塚越道夫先生(英語)

新任

相沢好雄先生(電気)

伊工より

芹沢勝美先生(保体)

佐波農より

小林保男先生(社会)

伊商より

菊地貞雄先生(機械)

伊工より

伴場茂先生(機械)

伊工より

大沢道保教頭

県センターより

栗野昭校長

(本校教頭より)

次の先生方は新任の先生です。

石関繁雄事務長

伊勢崎商へ

板垣雅俊先生(保体)

明和中へ

長谷川稔先生(電気)

館林商工へ

宮西孝明先生(工化)

伊勢崎工へ

齊藤芳國先生(機械)

館林商工へ

清水国稔先生(電気)

県センターへ

狩野徳司校長

桐生工へ

昭和六十年四月

職員移動

×学校だより

尾内秀夫先生(社会)

退職

高橋欣弥先生(機械)

退職

木村修先生(数学)

退職

×会員だより

計報(六十・九現在)

飯塚宣昭(十七期E)

同窓会では、既に三十七名の方々が永眠されました。

謹んでおくやみ申し上げます。

◇編集後記◇

今回の会報発刊にあたり、未熟なため何も出来ず、同窓会担当の先生方を初め本部役員の協力を頂き担当することが出来ました。

また、投稿を頂いた、諸先生、同窓生皆様に無事発刊出来ました事を紙面を借り御礼申し上げます。

木村清一